

# 大豆栽培ごよみ

JAむなかた 農振振興部農産販売課 36-2119  
 グリーンセンター本店 36-4785  
 グリーンセンター福岡 43-0939  
 グリーンセンター津屋崎 52-2900  
 北筑前普及指導センター 43-8833

## 品種 フクユタカ

月	6		7		8			9			10			11		
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中

### 栽培管理

**排水対策**  
 耕起・碎土・整地  
 土壌改良剤散布

**除草剤散布**  
 播種・施肥

**中耕・培土 (一回目)**  
 初生菜

**中耕・培土 (二回目)**  
 初生菜

うね溝かん水を行う  
 乾燥が続く場合は適宜

**食害を受けた葉(白葉変)**  
**ハスモンヨトウの二齢幼虫**

**ミナミアオカメムシの若齢幼虫**  
**ミナミアオカメムシの成虫**

**収 穫**

葉/全部落ちて残っていない。  
 莢/指でさわってもベトつかない。  
 莢を振るとカラカラ音がする。(水分20%以下)

茎/乾いて、指でさわってもベトつかない。  
 (水分50%以下でできれば40%以下)

子実/噛むと歯形がつく。(水分17%以下)

### 生育

初生菜展開	開花期	莢伸長期	子実肥大期	成熟期
-------	-----	------	-------	-----

### 病害虫防除

**種子消毒**  
 キヒゲンの1%種子粉衣 (ハト・紫斑病・タネバエ)  
 キヒゲンR-2フロアブルの塗末 (苗立枯病・紫斑病・タネバエ)

過去10年の梅雨入りと梅雨明け  
 九州北部

年	入り	明け	梅雨時期の降水量の 平年比(地域平年値) %
2007年	6月13日頃	7月23日頃	87
2008年	5月28日頃	7月6日頃	84
2009年	6月3日頃	8月4日頃	121
2010年	6月12日頃	7月17日頃	111
2011年	5月21日頃	7月8日頃	119
2012年	5月30日頃	7月23日頃	138
2013年	5月27日頃	7月8日頃	72
2014年	6月2日頃	7月20日頃	87
2015年	6月2日頃	7月29日頃	102
2016年	6月4日頃	7月18日頃	117
平年	6月5日頃	7月19日頃	

「平年」は、平成22年(2010年)までの過去30年の平均値です。  
 梅雨の合間をぬって適期播種に努めましょう!

**農薬散布時の飛散を防止しよう!**  
 ① 散布前に必ずラベルの確認  
 ② 散布時には近接作物や住宅街への飛散防止を徹底  
 ③ 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄  
 ④ 防除履歴の正確な記録

**開花期 (8月下旬~9月上旬)**  
 トレボン粉剤 DL 4kg (ハスモンヨトウ)  
 プレバンプロアブル5 4,000倍 + 150ℓ (ハスモンヨトウ)

**開花期後20~30日 (9月中旬~下旬)**  
 スミチオンベルコート粉剤 DL 3kg (紫斑病)  
 トップジンM水和剤 1,000倍 + 150ℓ (紫斑病)  
 スタークル液剤 10倍 (カメムシ類)

**開花期後40日 (10月上旬)**  
 スタークル液剤 10倍 + 150ℓ (カメムシ類)  
 スタークル粉剤 DL 3kg (カメムシ類)

**ハスモンヨトウ**  
 ① 防除効果は若令幼虫期が高く、幼虫が大きくなるにつれて低くなる。  
 ② 8月中~下旬に白葉変の発生が多い場合は8月末までに防除を行う。  
 ③ 薬剤散布は、できるだけ液剤で、広い地域で一斉に行う。  
 ④ 開花期後~莢伸長期(9月上~中旬)の葉の食害は、減収が大きい。

**カメムシ類**  
 ① 莢肥大期~子実肥大期(9月中~下旬)の莢の吸汁害は、減収が大きく青立ちとなる。  
 ② 成熟期頃まで加害するミナミアオカメムシの多発生により、品質の低下が問題となっている。  
 ③ ミナミアオカメムシは10月に急増するため、9月下旬~10月上旬の防除が必要。  
 ④ ミナミアオカメムシに効果が低い剤もあるため、こよみに記載の薬剤を使用する。

**紫斑病**  
 ① 種子消毒を必ず行う。  
 ② 莢肥大期~子実肥大期(9月中~下旬)に雨が降り、発生が多い。

### 土づくり・播種時期・施肥体系の見直しによって、高品質・高収量の大豆づくりをめざそう!

- ★問題点  
 JAむなかた管内では有効態リン酸と腐植(有機物)が少ない傾向にある。
- ★対策は?  
 ① 堆肥の施用、わらすき込みなどにより、地力向上を図る。(2t/10a)  
 ② PKC30号の施用により、バランスの良い肥料成分の供給に努める。

### 排水対策

- ★暗渠、明渠の施工、暗渠栓の点検確認。隣接水田、用水路からの漏水に注意しましょう。  
 ★排水良好なほ場を選び、転作ほ場の団地化を図る。うね立て播種を行い、表面排水を促す。

### 土壌改良

PHを6.0~6.5に矯正する(土壌診断により石灰の投入量を調整する)。

資材名	施用量(kg/10a)
苦土石灰 又は 消石灰	60~100

### 施肥

肥料名	基肥(kg/10a)	N-P-K
PKC30号(0-20-10)	30	0-6.0-3.0
くみあい化成ベスト444(14-14-14)	10 (収量が低下しているほ場、遅まきのほ場で使用)	1.4-1.4-1.4
大豆550(5-15-20)	30 (収量が低下しているほ場、遅まきのほ場で使用)	1.5-4.5-6.0

### 播種・出芽・苗立ち

※6月下旬には播種準備を整えて、7月上旬から天気を見計らい適期播種してください。

	播種時期	条間	株間	播種量	播種深度
早播	7月1日~10日	70cm	25cm	3kg	基準 3cm 土壌水分が多い ▶浅く 土壌水分が少ない ▶やや深く(5~6cm) +鎮圧する
適期播	7月11日~20日	70cm	20~15cm	4~6kg	
遅播	7月21日~31日	70~50cm	15cm	8kg	

- ① ハトの食害が多いところでは、地域全体の播種時期を統一する。  
 ② 種子消毒のキヒゲン及びキヒゲンR-2フロアブルは、鳥害防止に効果がある。

### 中耕・培土

★中耕・培土は除草対策、倒伏防止、排水対策、根の発生促進、根粒菌の増加、地力窒素の発現促進等、多収栽培のための重要な作業である。

- ① 1回目: 本葉3葉期に子葉節まで培土する(播種後約2週間目頃)。  
 ② 2回目: 本葉5葉期に初生菜節まで培土する(播種後約3週間目頃)。



### 除草

	除草剤名	適用雑草	処理時期	使用方法	使用量/10a	希釈水量/10a
播種期	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	耕起前又は出芽前	雑草	200~500ml	50~100ℓ
	ブリグロックスL		播種前又は植付前	茎葉散布	600~1,000ml	100~150ℓ
	サターンバアロ乳剤		播種後発芽前(雑草発生前)	全面	600~800ml	70~100ℓ
	サターンバアロ粒剤		播種直後(雑草発生前)	全面	4~6kg	—
	クリアターン乳剤		播種直後(雑草発生前)	土壌散布	500~800ml	70~100ℓ
大豆生育期	フルミオ@WDG	一年生広葉雑草	播種後出芽前(雑草発生前)	—	5~10g	100ℓ
	ポルトフロアブル	一年生イネ科雑草 スズメノカタビラを除く	雑草生育期(イネ科雑草3~10葉期収穫30日前まで)	雑草	200~300ml	100ℓ
	大豆バサグラン液剤	一年生雑草 イネ科を除く	大豆の2葉期~開花前(雑草の生育初期~6葉期) 収穫45日前まで	茎葉散布	100~150ml	—
			大豆の生育期(雑草の生育初期~6葉期) 収穫45日前まで	畔間雑草 茎葉散布	300~500ml	100ℓ

- ① 播種直後に残草が多い場合は、サターンバアロ乳剤又はクリアターン乳剤と、ブリグロックスL(800ml/10a)の処理を行う。  
 ② 土壌の表面が著しく乾燥していると除草効果が劣るので、除草剤は希釈水量を多くする。  
 ③ フルミオ@WDGはイネ科雑草には効果がないが、ホソアオゲイトウ、ホソズキなどの雑草に効果が高いので、圃場を選択して使用する。  
 ④ どの除草剤も散布した後は散布器のタンクやホース・ノズルを十分に洗浄する。特にフルミオ@WDGは本体に付属している専用洗浄剤(不活性化)を使用して洗浄する必要があることに注意すること。  
 ⑤ 大豆バサグラン液剤の使用については、重複散布すると薬害を助長することがあるので散布には十分注意すること。また、高温時日中の散布や湿害、肥料不足等により生育不良の場合も薬害を助長することがあるので使用に注意すること。広葉雑草でも草種により効果が劣る場合があるので、使用に関しては関係機関にお尋ねください。  
 ⑥ 大豆生育期にイネ科雑草と広葉雑草がどちらも多い場合は、ポルトフロアブルと大豆バサグラン液剤の処理を行う。

	除草剤名	処理時期	使用量/10a	希釈水量/10a
落葉終期	ラウンドアップマックスロード	落葉終期~ 収穫14日前まで (雑草生育期)	500ml	50~100ℓ

- ※だいたいの落葉終期~収穫14日前までに使用する場合、特に以下のことに注意すること。  
 ① 落葉終期とは、だいたいの葉の大部分が落葉した時期とする。  
 ② だいたいの着生葉や莢色に淡緑色が残っている等の成熟の遅れた株(青立ち株)に散布すると、子実の変色やしわ粒等が発生する場合がありますので、散布前に除去等を行うこと。  
 ③ 水分含量の高い果実をつけた雑草では茎葉が枯れても果実が残る場合があり、汚損粒の原因となるので収穫前に除去等を行うこと。また、雑草の茎水分含量が高い場合も汚損粒の原因になるので収穫前に除去等を行うこと。  
 ④ 気温が低下する条件での処理であり、効果の完成まで2週間以上の期間を要するので、収穫時期は処理後3週間を目安とする。

### 収穫

- ★コンバイン収穫の留意点  
 ① コンバインによる収穫開始適期は、茎の色が莢の褐色よりやや黒色を帯びるころで、手で折ると軽くボキッと折れる状態(茎水分50%以下で子実水分が17%以下)で刈り取る。  
 ② 早刈りすると汚損粒・破砕粒が生じ、遅すぎると莢がはじけ、収穫口が大きくなる。  
 ③ 朝・夕の露のある時は絶対に刈り取りをしない。  
 ④ 収穫時の汚損粒の発生防止のため、青立ち株や大型雑草は、刈り取り前にはほ場から除去する。  
 ⑤ 泥かみ防止のため、低く刈りすぎない。(目安は下から15cm程度)